あら坊・あらみぃと一緒にみる

荒川区の財務諸表

（令和２年度決算版）

荒川区

本冊子に記載の計上額は令和２年度一般会計決算のものです。

目　次

あら坊・あらみぃと一緒に
第１部　財務諸表をみてみよう　・・・・・・・・・・・・・・・・・・１頁

はじめに　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１頁
財務諸表のしくみ・・・・・・・・・・・・・・・・・・２頁
貸借対照表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・６頁
行政コスト計算書・・・・・・・・・・・・・・・・・・８頁
財務諸表の全体構成・・・・・・・・・・・・・・・・１０頁

第２部　財務諸表の解説　・・・・・・・・・・・・・・・・・１１頁

令和２年度一般会計財務諸表の概要・・・・１２頁
財務諸表の説明・・・・・・・・・・・・・・・・・・１４頁
　１　貸借対照表・・・・・・・・・・・・・・・・・１４頁
　２　行政コスト計算書・・・・・・・・・・・・１６頁
　３　キャッシュ・フロー計算書・・・・・１８頁
　４　正味財産変動計算書・・・・・・・・・２０頁
　５　有形固定資産及び無形固定資産附属明細書　２１頁

本書の計数については、各項目とも表示単位未満を四捨五入しているため、表中の内訳と合計が一致しない場合があります。

第１部　あら坊・あらみぃと一緒に　財務諸表をみてみよう

はじめに

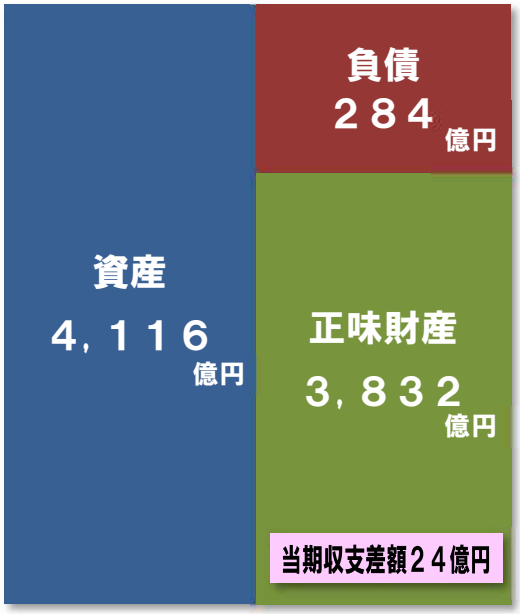
財務諸表のしくみ

まずは、財務諸表の基本からね。
日々の複式簿記を積み上げて財務諸表は出来上がるの。
それじゃあ解説していくわね。

財務諸表は、年度末の財産を示す「貸借対照表」と１年間の行政サービスに関わる経費の収支を示す「行政コスト計算書」の２つが基本よ。
荒川区の令和２年度一般会計財務諸表のうち、貸借対照表と行政コスト計算書は、次のとおりよ。

令和２年度一般会計財務諸表

貸借対照表



令和３年３月末の財産

行政コスト計算書

１年間の行政サービスの収支

当期収支差額の２４億円の矢印はどういう意味なの？

令和３年３月末の財産　　１年間の行政サービスの収支

その矢印は、行政コスト計算書の１年間の収支が、貸借対照表の正味財産の増減につながっているという意味なのよ。

このような形で２つの財務諸表はつながっていて、貸借対照表と行政コスト計算書は２つで一つの決算を示しているの。

あと、貸借対照表は必ず「資産」＝「負債」＋「正味財産」になるのよ。

貸借対照表では、こんなふうに、左側に資産、右側に負債・正味財産を表示して、左右で金額が一致するの。

このことから、英語ではバランスシートというのよ。

うーん、まだしっくりこないなぁ。

それではまず、貸借対照表の見方を教えるわね。

例えば年度当初に１００円持っていて、そのうち３０円が借りているお金とすると、実際の自分の財産は７０円よね。

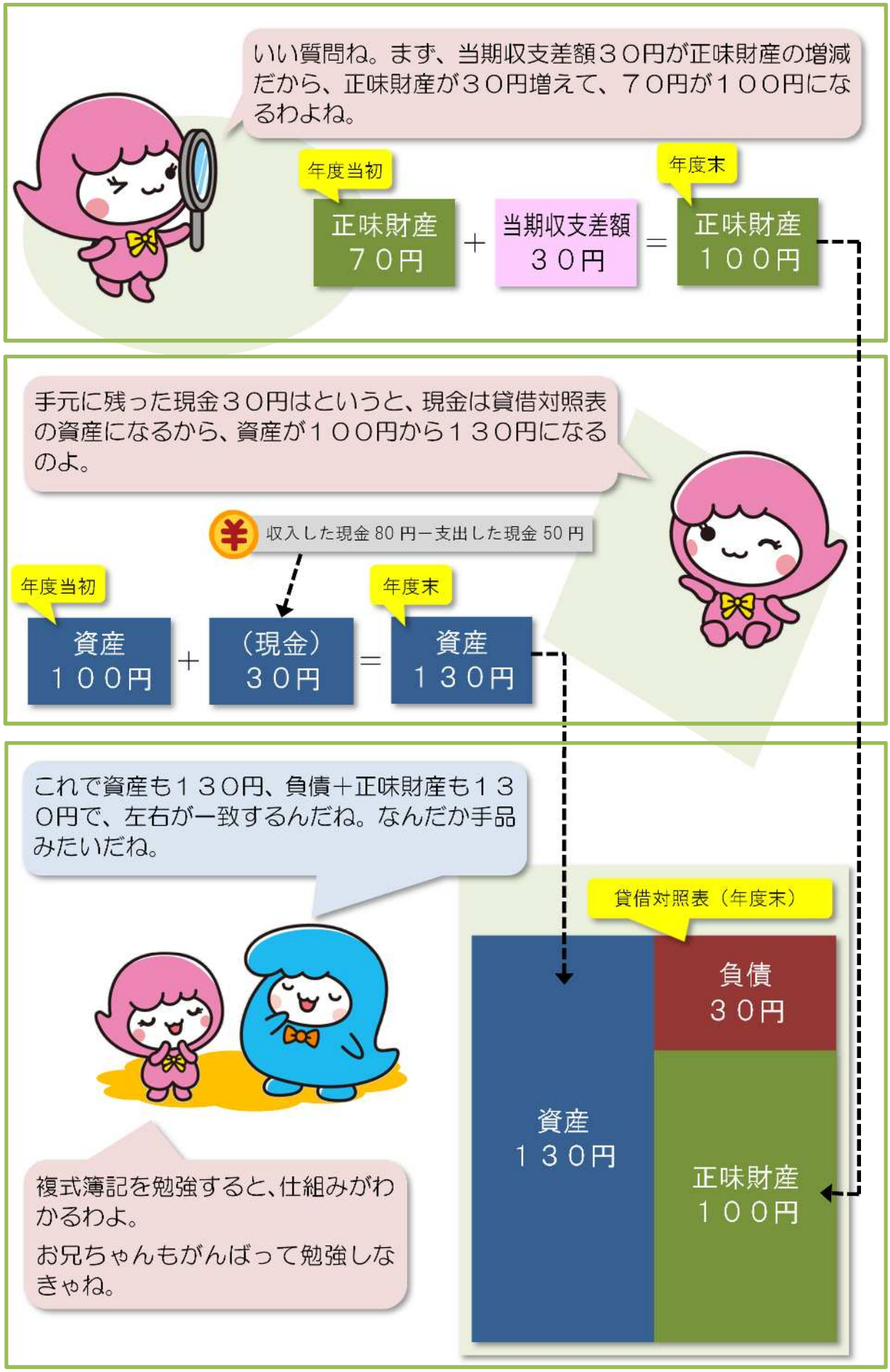
持っているお金を「資産」、借りているお金を「負債」、その差引の実際の自分の財産を「正味財産」というのよ。貸借対照表に置き換えるとこんな感じね。左右が一致しているでしょ。

ほんとだ！

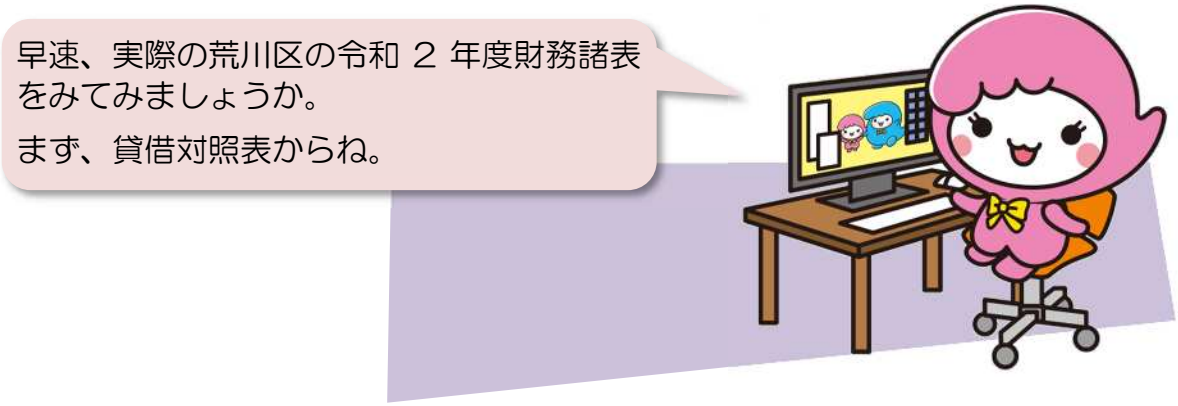
左側に資産が１００円で、右側に負債３０円＋正味財産７０円だから、合計１００円で、左右の金額が一致しているね。

次に１年間で８０円収入を得て５０円支出すると収支差額は３０円。これを行政コスト計算書に置き換えるとこうなるわ。

ふむふむ。ところで８０円から５０円を引くと、手元に３０円が残るけど、それはどこに行っちゃったの？


いい質問ね。まず、当期収支差額３０円が正味財産の増減だから、正味財産が３０円増えて、７０円が１００円になるわよね。
年度当初
正味財産
７０円
＋
当期収支差額
３０円
＝
年度末
正味財産
１００円
手元に残った現金３０円はというと、現金は貸借対照表の資産になるから、資産が１００円から１３０円になるのよ。
収入した現金 80 円－支出した現金 50 円
年度当初
資産
１００円
＋
（現金）
３０円
＝
年度末
資産
１３０円
これで資産も１３０円、負債＋正味財産も１３０円で、左右が一致するんだね。なんだか手品みたいだね。
複式簿記を勉強すると、仕組みがわかるわよ。
お兄ちゃんもがんばって勉強しなきゃね。
貸借対照表（年度末）
負債
３０円
資産
１３０円
正味財産
１００円

貸借対照表

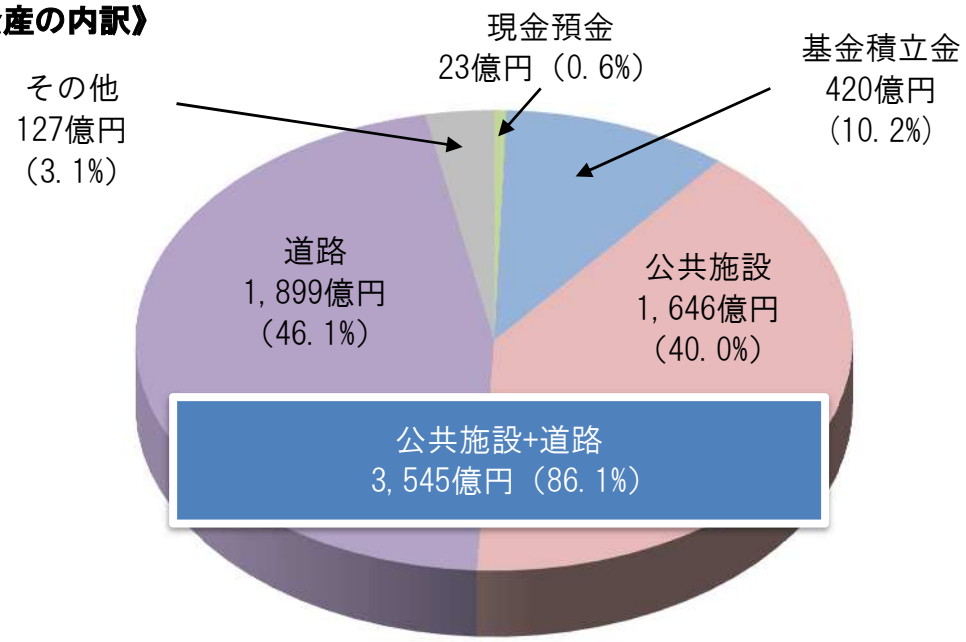


貸借対照表（一般会計）

（令和 3 年 3 月 31 日現在）

資産		負債	
現金預金	２３億円	特別区債	１９０億円
基金積立金	４２０億円	賞与・退職給与引当金	９１億円
公共施設	１，６４６億円	その他	２億円
道路	１，８９９億円	負債合計	２８４億円
その他	１２７億円	正味財産	３，８３２億円
資産合計	４，１１６億円	負債及び正味財産合計	４，１１６億円

《資産の内訳》



※勘定科目は、わかりやすいよう、行政財産及び普通財産を公共施設、インフラ資産を道路と読み替えています。

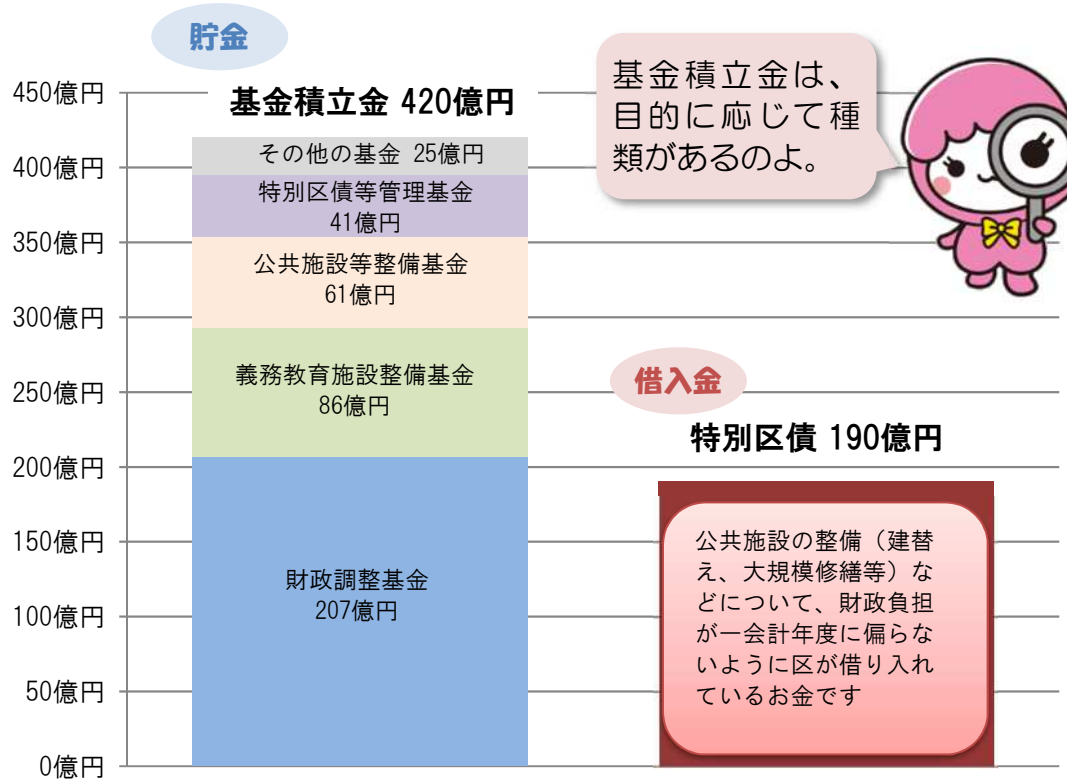
資産のうち、道路が約５割、公共施設が約４割を占めているんだね。これは自治体の貸借対照表の特徴の一つなんだよね。

基金積立金や特別区債、賞与・退職給与引当金ってどういうものなの？

基金積立金は区の貯金で、特別区債は区が借り入れているお金よ。

借入金（特別区債）が１９０億円もあるんだ。でも、貯金（基金積立金）が４２０億円だから、貯金のほうが多いんだね。

《基金積立金の内訳と特別区債の状況（一般会計）》



基金積立金は、目的に応じて種類があるのよ。

賞与・退職給与引当金は、将来支払うお金を負債とみなして計上しているものよ。

財務諸表を作ると、いろいろなことがわかるんだね！

行政コスト計算書

次は行政コスト計算書ね。行政コスト計算書は「行政収支」「金融収支」「特別収支」の３つの区分があるけど、主な収支である「行政収支」を見てみるわね。

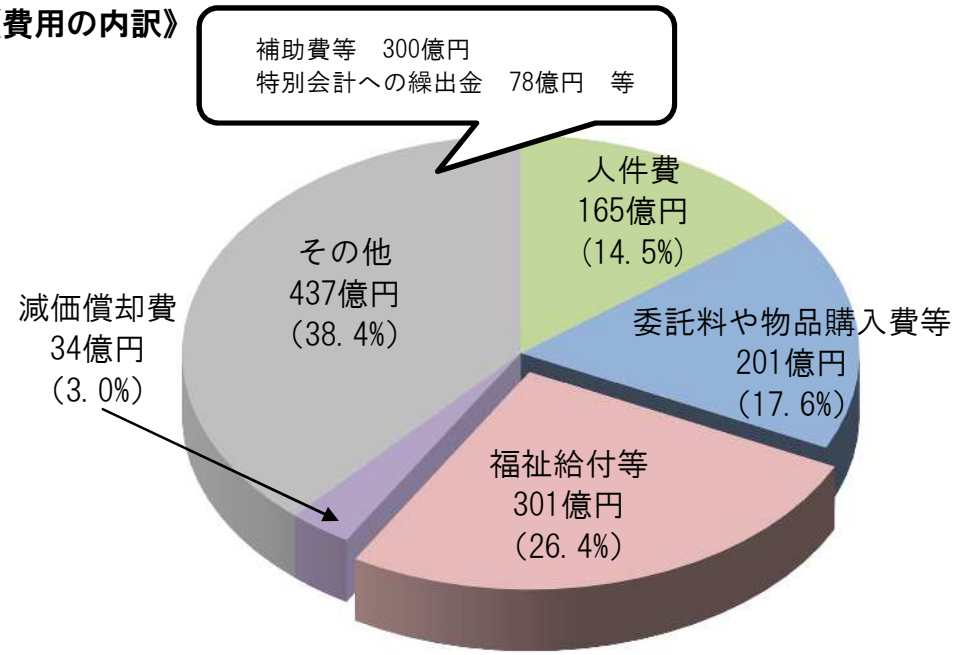
行政コスト計算書（一般会計）

＜行政収支＞

（令和２年４月１日～令和３年３月31日）

費用		収入	
人件費	１６５億円	特別区税	１８５億円
委託料や物品購入費等	２０１億円	特別区財政調整交付金	３９１億円
福祉給付等	３０１億円	国庫・都支出金	４９０億円
減価償却費	３４億円	使用料及び手数料	１５億円
その他	４３７億円	その他	８２億円
合　計	１，１３８億円	合　計	１，１６３億円
行政収支差額	２５億円		

《費用の内訳》



※勘定科目は、わかりやすいよう、地方税を特別区税、給与関係費を人件費、物件費を委託料や物品購入費等、扶助費を福祉給付等と読み替えています。

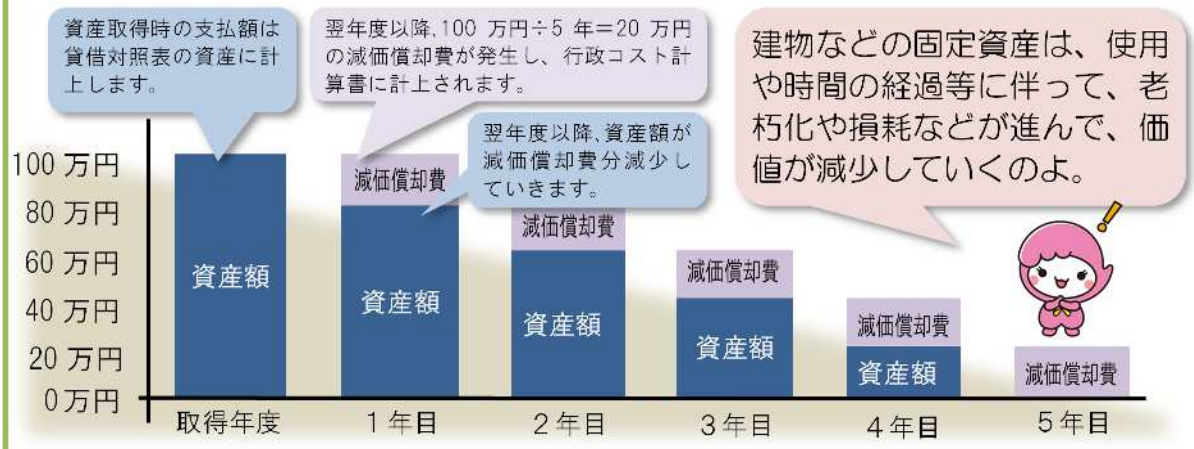
費用をみると、子育て支援の充実のほか、高齢者や障がい者の方への給付など、全ての区民が安心して暮らすために必要な福祉給付等に区が力を入れているのがわかるわね。

福祉給付等は、大切な費用なんだね。
ところで減価償却費ってどういう費用なの？

減価償却費は、1年間の建物等の価値の減少分を金額で示したものよ。実際に現金が減るのではなくて資産の価値が減っていくから、資産の額が貸借対照表上減るのよ。イメージは下の「減価償却の例」を見てね。

同じように現金収支を伴わない費用では、貸借対照表のいろいろな引当金を増やすための引当金繰入額というのもあるのよ。

《減価償却の例（取得価格 100 万円、耐用年数 5 年の場合）》



減価償却費や引当金繰入額とか、今までは見えなかった費用がわかるんだね。

そうよ、財務諸表には、区の財務状況を考えるたくさんのヒントがちりばめられているのよ。

財務諸表の全体構成

荒川区の財務諸表は、貸借対照表と行政コスト計算書の他に、キャッシュ・フロー計算書と正味財産変動計算書があって、全部で４つの表で構成されているの。

それら４表は互いに関係しあって、一体として荒川区の財務状況を示しているのよ。

ここでは各表の関係を紹介するので、次の頁からの財務諸表の解説をみるときの参考にしてね。

※　矢印は表間で金額が一致する箇所を示しています。
※　［　］内は令和２年度一般会計の決算額を示しています。

① 貸借対照表

資産	負債
[4, 116 億円]	[284 億円]
（現金預金）[23 億円]	正味財産 [3, 832 億円]

② 行政コスト計算書

費用	収入
[1, 141 億円]	[1, 164 億円]
当期収支差額 [24 億円]	

③ キャッシュ・フロー計算書

行政サービス活動[64 億円]

社会資本整備等投資活動[△78 億円]

財務活動[8 億円]

＋

前年度からの繰越金[29 億円]

＝

形式収支[23 億円]

④ 正味財産変動計算書

前期末残高[3, 787 億円]

＋

当期変動額 [45 億円]

（当期収支差額）[24 億円]

＝

当期末残高[3, 832 億円]

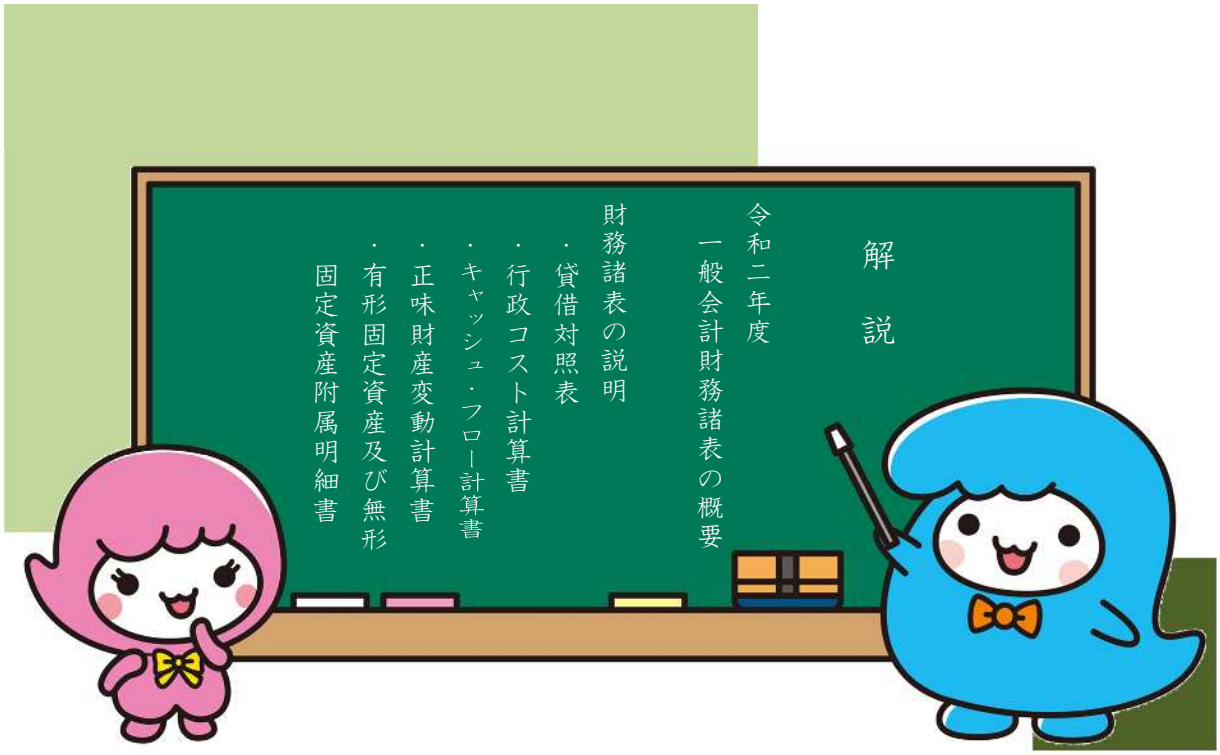
キャッシュ・フロー計算書は、現金の収支を３つに区分して示していて、現金がどのような行政活動で増減したかわかるんだよ。

形式収支は年度末の現金だから、貸借対照表の現金預金と一致するよ。

正味財産変動計算書は、正味財産の１年間の増減内訳を示しているのよ。

※ 上記４表のほか財務諸表の補足説明のための「有形固定資産及び無形固定資産附属明細書」があります。

第２部　財務諸表の解説


解　説
令和二年度
一般会計財務諸表の概要
財務諸表の説明
・貸借対照表
・行政コスト計算書
・キャッシュ・フロー計算書
・正味財産変動計算書
・有形固定資産及び無形固定資産附属明細書

僕も荒川区の財務諸表がわかってきたよ。
よかったわ！
第２部では荒川区の財務諸表についてもう少し詳しく解説するわね。
まだまだ財務諸表からわかることがいっぱいあるんだね！
そうよ。第２部は盛りだくさんなんだから！
まずは「令和２年度一般会計財務諸表の概要」よ。
ぜひみてね！

令和２年度一般会計財務諸表の概要

1　貸借対照表

（単位：億円）

科　目	令和２年度	令和元年度	増減	科　目	令和２年度	令和元年度	増減
資産の部				負債の部			
流動資産	241	220	20	流動負債	26	25	1
現金預金	23	29	△ 5	還付未済金	0	0	0
収入未済	12	12	0	特別区債	16	16	0
不納欠損引当金	△ 2	△ 1	0	リース債務	1	1	0
基金積立金	207	181	26	賞与引当金	8	8	1
短期貸付金	0	0	0	固定負債	258	245	14
貸倒引当金	0	0	0	特別区債	174	165	9
固定資産	3,875	3,835	40	リース債務	2	2	△ 1
行政・普通財産	1,646	1,596	50	退職給与引当金	83	77	6
インフラ資産	1,899	1,898	1	負債の部合計	284	269	15
リース資産	5	11	△ 6	正味財産の部			
長期貸付金	18	18	0				
貸倒引当金	0	0	0	正味財産	3,832	3,787	45
基金積立金	213	212	1				
その他	93	100	△ 6	正味財産の部合計	3,832	3,787	45
資産の部合計	4,116	4,056	60	負債及び正味財産の部合計	4,116	4,056	60

貸借対照表の概要

○　資産の総額は 4, 116 億円で、前年度と比較して 60 億円増加しています。これは、固定資産のうち行政・普通財産が、荒川区立日暮里地域活性化施設（ふらっとにっぽり）や新たな尾久図書館の建設などにより 50 億円増加したこと等によるものです。

○　負債の総額は 284 億円で、前年度と比較して 15 億円増加しています。これは、令和 2 年度に荒川区立日暮里地域活性化施設（ふらっとにっぽり）や新たな尾久図書館の建設などにかかる特別区債を発行したこと等によるものです。

○　資産から負債を差し引いた正味財産総額は 3, 832 億円で、前年度から 45 億円増加しています。

3　キャッシュ・フロー計算書

（単位：億円）

科　目	令和２年度	令和元年度	増減
行政サービス活動収支差額①	64	91	△ 27
社会資本整備等投資活動収支差額②	△ 78	△ 83	5
財務活動収支差額③	8	△ 8	16
収支差額合計ア(①+②+③)	△ 5	0	△ 6
前年度からの繰越金イ	29	28	0
形式収支(ア+イ)	23	29	△ 5

キャッシュ・フロー計算書の概要

○　キャッシュ・フロー計算書の収支差額合計は、前年度と比較して 6 億円減少しています。これは、社会資本整備等投資活動収支差額が 5 億円、財務活動収支差額が 16 億円増加した一方で、行政サービス活動収支差額が 27 億円減少したことによるものです。

○　収支差額合計に前年度からの繰越金 29 億円を加えた形式収支は 23 億円です。

これがあらみぃが言っていた荒川区の財務諸表の４つの表なんだね。

２　行政コスト計算書

（単位：億円）

科　目	令和２年度	令和元年度	増減	科　目	令和２年度	令和元年度	増減
行政費用①	1,138	865	273	行政収入②	1,163	928	235
給与関係費	165	150	15	地方税	185	180	5
物件費	201	194	6	特別区財政調整交付金	391	407	△ 16
維持補修費	13	10	2	その他交付金等	57	52	5
扶助費	301	302	△ 1	国庫支出金	405	175	230
補助費等	300	63	237	都支出金	85	66	19
減価償却費	34	32	2	分担金及び負担金	9	12	△ 3
各種引当金繰入額	25	15	10	使用料及び手数料	15	19	△ 3
その他	99	98	1	その他	17	17	△ 1
行政収支差額ア(②-①)	25	63	△ 38				
金融費用③	1	2	0	金融収入④	0	0	0
金融収支差額イ(④-③)	△ 1	△ 1	0				
通常収支差額(ア+イ)	24	62	△ 38				
特別費用⑤	2	1	1	特別収入⑥	1	2	△ 1
特別収支差額ウ(⑥-⑤)	△ 1	1	△ 2				
当期収支差額(ア+イ+ウ)	24	63	△ 40				

行政コスト計算書の概要

○　行政費用は 1,138 億円で、前年度と比較して 273 億円増加しています。これは、新型コロナウイルス感染症対策における特別定額給付金、医療従事者への特別給付金及びひとり親世帯や子育て世帯に対する臨時特別給付金の給付などにより、補助費等が増加したこと等によるものです。

　行政収入は 1,163 億円で、前年度と比較して 235 億円増加しています。これは、特別定額給付金事業に対する国庫支出金等によるものです。

○　行政収支に、特別区債の利子支払等の金融収支及び特別収支を加えた令和 2 年度当期収支差額は、24 億円の黒字となっています。

４　正味財産変動計算書

（単位：億円）

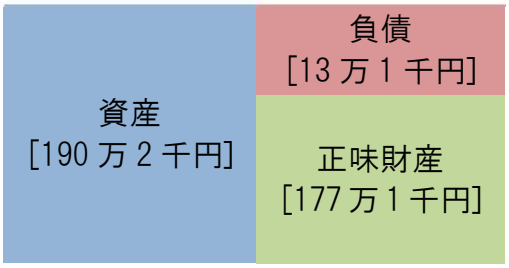
項　目	金額
前期末残高ア	3,787
当期変動額イ	45
当期収支差額	24
その他の増減	22
当期末残高(ア+イ)	3,832

正味財産変動計算書の概要

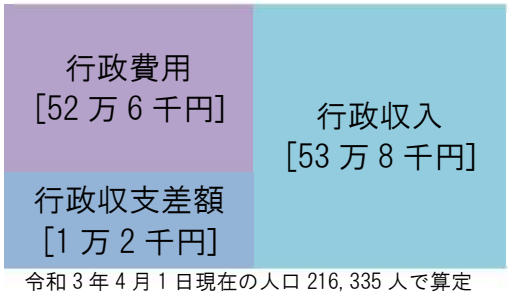
○　正味財産の前期末残高は 3,787 億円でしたが、令和 2 年度中に 45 億円増加し、当期末残高は 3,832 億円となりました。増加額の主な内訳は、区の行政サービスに係る収支（行政コスト計算書の当期収支差額）24 億円の黒字や、その他の増減における公共施設整備のための国庫･都支出金 21 億円です。

区民一人当たりの財務諸表

貸借対照表



行政コスト計算書（行政収支）



令和 3 年 4 月 1 日現在の人口 216,335 人で算定

財務諸表の説明

貸借対照表は、区の財産等（資産）や借入金等（負債）が一目でわかるんだ。

1　貸借対照表

貸借対照表は、荒川区が住民サービスを提供するために保有している財産（資産）と、その資産をどのような財源（負債・正味財産）で賄ったかを総括的に示したものです。左右の資産合計額と負債及び正味財産合計額が一致している表であることから、バランスシートとも呼ばれます。

＜一般会計貸借対照表＞

（単位：百万円）

【資産の部】	令和２年度	令和元年度	増減
Ⅰ　流動資産	24, 081	22, 036	2, 045
現金預金	2, 338	2, 869	△ 531
収入未済	1, 185	1, 156	29
不納欠損引当金	△ 166	△ 135	△ 31
基金積立金	20, 705	18, 126	2, 580
短期貸付金	18	20	△ 2
貸倒引当金	0	0	0
Ⅱ　固定資産	387, 486	383, 530	3, 955
１　行政財産	152, 605	148, 034	4, 570
２　普通財産	11, 967	11, 547	420
３　重要物品	1, 381	1, 386	△ 5
４　インフラ資産	189, 896	189, 766	130
５　リース資産	536	1, 135	△ 599
６　建設仮勘定	2, 460	3, 104	△ 645
７　投資その他の資産	28, 641	28, 558	83
有価証券及出資金	4, 939	4, 939	0
出捐金	550	550	0
長期貸付金	1, 830	1, 822	7
貸倒引当金	0	0	0
基金積立金	21, 322	21, 246	76
資産の部合計	411, 566	405, 566	6, 001

※　６頁の勘定科目は、わかりやすいよう、行政財産及び普通財産を公共施設、インフラ資産を道路と読み替えています。

Ⅰ　流動資産

翌年度に現金化しうる資産です。

収入未済

収入すべき額のうち、まだ現金化されていない額

不納欠損引当金／貸倒引当金

収入未済や貸付金のうち、回収できない可能性がある額を見積計上したもの

基金積立金

財政調整基金及び特別区債等管理基金のうち翌年度取崩予定額

短期貸付金

翌年度に償還期限が到来する貸付金額

行政財産が増えているんだね。

Ⅱ　固定資産

行政活動のために使用することを目的として保有する資産や１年を超えて現金化される資産等です。記載金額は現在価格です。

行政財産

庁舎や区立学校等、公用・公共用の公有財産（インフラ資産を除く）

普通財産

行政財産以外の公有財産（貸付等で収益を得る、行政目的の用途がなくなった財産等）

重要物品

取得価格 100 万円以上の物品

インフラ資産

道路、橋梁等の公有財産

リース資産

ファイナンス・リース契約による資産

建設仮勘定

建設中の建物等に係る支出済額

投資その他の資産

有価証券や流動資産以外の基金積立金（※）等

※　特定目的基金及び特別区債等管理基金（翌年度取崩予定額を除く）

区の借入金（特別区債）に加えて、将来の負担が見込まれる退職給与引当金も少し増えているのね。

（単位：百万円）

【負債の部】	令和２年度	令和元年度	増減
Ⅰ　流動負債	2, 561	2, 454	107
還付未済金	17	20	△ 4
特別区債	1, 633	1, 600	32
短期借入金	0	0	0
リース債務	71	75	△ 4
未払金	0	0	0
賞与引当金	841	758	83
Ⅱ　固定負債	25, 832	24, 456	1, 376
特別区債	17, 385	16, 493	891
長期借入金	0	0	0
リース債務	161	228	△ 66
退職給与引当金	8, 286	7, 735	551
負債の部合計	28, 393	26, 910	1, 483
【正味財産の部】	令和２年度	令和元年度	増減
正味財産	383, 174	378, 656	4, 518
負債及び正味財産の部合計	411, 566	405, 566	6, 001

正味財産

資産の部合計から負債の部合計を差し引いたものです。

Ⅰ　流動負債

翌年度に支払うべき負債です。

還付未済金

過誤納金のうち、当年度末までに還付できなかったもの

特別区債（流動負債）

特別区債のうち、翌年度償還予定額

リース債務（流動負債）

リース資産計上金額のうち、翌年度支払予定の賃借料

賞与引当金

翌年度６月の期末・勤勉手当等のうち、当年度の勤務に対応する額

Ⅱ　固定負債

１年を超えて支払時期が到来する負債です。

特別区債（固定負債）

特別区債のうち、翌々年度以降の償還予定額

リース債務（固定負債）

リース資産計上金額のうち、翌々年度以降に支払予定の賃借料

退職給与引当金

在籍する職員が期末に自己都合退職すると仮定した場合に必要な退職手当額を見積計上したもの

2　行政コスト計算書

行政コスト計算書とは、１年間の行政活動のうち、資産形成にあたらない行政サービスの費用（給与関係費、物件費、扶助費等）と収入（地方税、使用料及び手数料等）を示したものです。収入には、当年度に収入することが決まった金額のほか、各種引当金の戻入益等現金の収入を伴わないものも含まれています。また、費用には減価償却費や各種引当金の繰入額等現金の支出を伴わないものが含まれています。

行政コスト計算書は、現金収支だけでなく、行政サービスを提供するために必要な、会計上想定される収支も含んでいるから、より幅広くコストを把握できるんだよ。

通常収支の部

通常の行政活動に伴う収支のことです。

Ⅰ　行政収支の部

区が区民に行う行政サービスの活動による収支で構成されます。

Ⅱ　金融収支の部

預金利子収入や資金調達経費（特別区債利子等）の収支で構成されます。

通常収支差額

行政収支差額と金融収支差額との合計額です。

特別収支の部

固定資産の売却益等、通常収支には含まれない収入と費用で構成されます。

当期収支差額

通常収支差額と特別収支差額との合計額です。

＜一般会計行政コスト計算書＞

（単位：百万円）

科目	令和２年度	令和元年度	増減
通常収支の部			
Ⅰ　行政収支の部			
１　行政収入	116, 295	92, 816	23, 479
地方税	18, 489	18, 005	483
地方譲与税・交付金等	5, 659	5, 192	467
特別区財政調整交付金	39, 054	40, 693	△ 1, 639
国庫支出金	40, 525	17, 538	22, 987
都支出金	8, 495	6, 638	1, 857
分担金及び負担金	891	1, 166	△ 276
使用料及び手数料	1, 517	1, 852	△ 335
繰入金	92	176	△ 84
その他の行政収入	1, 575	1, 556	19
２　行政費用	113, 793	86, 481	27, 312
給与関係費	16, 535	15, 023	1, 512
物件費	20, 057	19, 419	637
維持補修費	1, 267	1, 033	235
扶助費	30, 085	30, 155	△ 69
補助費等	30, 045	6, 338	23, 707
投資的経費	2, 078	2, 134	△ 56
繰出金	7, 798	7, 666	132
減価償却費	3, 409	3, 183	226
不納欠損・貸倒引当金繰入額	150	132	18
賞与・退職給与引当金繰入額	2, 368	1, 397	971
行政収支差額	2, 502	6, 335	△ 3, 833
Ⅱ　金融収支の部			
１　金融収入	43	32	11
受取利息及配当金	43	32	11
２　金融費用	133	154	△ 21
公債費（特別区債利子）	133	149	△ 16
その他の金融費用	0	5	△ 5
金融収支差額	△ 91	△ 122	32
通常収支差額	2, 412	6, 213	△ 3, 801
特別収支の部			
１　特別収入	112	222	△ 110
２　特別費用	169	115	54
特別収支差額	△ 58	107	△ 165
当期収支差額	2, 354	6, 320	△ 3, 966

※　８頁の勘定科目は、わかりやすいよう、地方税を特別区税、給与関係費を人件費、物件費を委託料や物品購入費等、扶助費を福祉給付等と読み替えています。

通常収支の部

Ⅰ 行政収支の部

1 行政収入

地方税 特別区民税、軽自動車税、特別区たばこ税

地方譲与税・交付金等 地方譲与税（地方揮発油譲与税、自動車重量譲与税）、地方特例交付金及びその他の交付金等

特別区財政調整交付金 都と特別区及び特別区相互間の財源均衡化を図るため、都から区へ交付されるもの

国庫支出金／都支出金 国・都からの支出金のうち、資産形成にあたらないもの

分担金及び負担金 区の行う事業による受益者からの徴収金

使用料及び手数料 区民施設の使用料や、住民票の発行手数料等

繰入金 特別会計から一般会計への繰入金のうち、資産に計上しないもの

その他の行政収入 財産収入、寄附金、諸収入

2 行政費用

給与関係費 報酬、給料、職員手当等の人件費

物件費 光熱水費、消耗品費や 100 万円未満の備品購入費、委託料等

維持補修費 公有財産等の維持・補修経費（施設の増改築等、資産価値を向上させる支出は含まない）

扶助費 生活保護法や児童福祉法等に基づき支給する福祉給付等

補助費等 他団体等に対して支出する、負担金、補助金及び交付金等の経費

投資的経費 投資的経費のうち、委託料や工事請負費等で、少額支出等の理由により区の資産形成にあたらない経費

繰出金 一般会計から特別会計への繰出金のうち、資産に計上しないもの

減価償却費 建物、工作物、取得価格 100 万円以上の物品等、固定資産の１年間の価値減少分について、定額法により見積り、費用として計上したもの

不納欠損・貸倒引当金繰入額 不納欠損引当金、貸倒引当金の当期発生額

賞与・退職給与引当金繰入額 賞与引当金、退職給与引当金の当期発生額

Ⅱ 金融収支の部

1 金融収入

受取利息及配当金 基金積立金等による利子収入や株式配当金等

2 金融費用

公債費（特別区債利子） 特別区債に係る支払利子

その他の金融費用 特別区債発行費（特別区債発行等に要する経費）、特別区債発行差金（特別区債を割引発行した場合に生じた特別区債の額面金額と実際の発行金額との差額）、一時借入金等利子

特別収支の部

区が区民に行う行政サービスの活動による収支には含まれない収入・費用

1 特別収入

固定資産売却益等

2 特別費用

固定資産売却損、不納欠損額等

3　キャッシュ・フロー計算書

キャッシュ・フロー計算書は、現金収支を３つの活動区分（行政サービス活動、社会資本整備等投資活動、財務活動）に分けて表示したものです。活動区分の名称等、企業会計とは異なる部分もありますが、現金収支を活動区分ごとに明らかにするという役割は、企業会計のキャッシュ・フロー計算書と同じです。

Ⅰ　行政サービス活動

経常的な行政サービスを提供するための現金収支です。

＜収入＞

税収等　地方税（特別区民税、軽自動車税、特別区たばこ税）、地方譲与税・交付金等（地方消費税交付金、配当割交付金等）、特別区財政調整交付金の収入

国庫支出金／都支出金　国・都からの支出金のうち、資産形成にあたらないもの

業務収入　分担金及び負担金や使用料及び手数料、その他事業収入等

金融収入　受取利息及び配当金による収入

＜支出＞

給与関係費　職員給与等

物件費　光熱水費や消耗品費、100 万円未満の備品購入費、委託料等

維持補修費　公有財産等の維持・補修経費（施設の増改築等、資産に計上される支出は含まない）

扶助費　生活保護法や児童福祉法等に基づき支給する福祉給付等

補助費等　他団体等に対して支出する、負担金、補助金及び交付金等の経費

投資的経費　委託料や工事請負費等のうち、支出の性質や金額の僅少性から、区の資産形成にあたらない経費

繰出金　一般会計から特別会計への繰出金のうち、資産計上しないもの

金融支出　特別区債（利子）、特別区債発行費、一時借入金等利子等の支出

＜一般会計キャッシュ・フロー計算書＞

（単位：百万円）

科目	令和２年度	令和元年度	増減
Ⅰ　行政サービス活動			
税収等	63, 150	63, 895	△ 745
地方税	18, 437	18, 010	428
地方譲与税・交付金等	5, 659	5, 192	467
特別区財政調整交付金	39, 054	40, 693	△ 1, 639
国庫支出金	40, 525	17, 538	22, 987
都支出金	8, 495	6, 638	1, 857
業務収入	3, 992	4, 682	△ 691
分担金及び負担金	846	1, 163	△ 317
使用料及び手数料	1, 495	1, 855	△ 360
繰入金	92	176	△ 84
その他業務収入	1, 560	1, 489	71
金融収入	43	32	11
収入計	116, 204	92, 785	23, 419
行政支出	109, 646	83, 525	26, 122
給与関係費	18, 306	16, 776	1, 530
物件費	20, 057	19, 419	637
維持補修費	1, 267	1, 033	235
扶助費	30, 085	30, 155	△ 69
補助費等	30, 055	6, 343	23, 713
投資的経費	2, 078	2, 134	△ 56
繰出金	7, 798	7, 666	132
金融支出	133	154	△ 21
（うち特別区債利子等）	133	154	△ 21
特別支出	0	0	0
支出計	109, 780	83, 679	26, 101
行政サービス活動収支差額	6, 424	9, 106	△ 2, 682

キャッシュ・フロー計算書は、次のページに続くよ。
１８頁と１９頁あわせてひとつの表なんだよ。

キャッシュ・フロー計算書は活動区分ごとにみるのよ。行政サービス活動の収支差額がプラスになっているでしょ。このプラス分が、施設整備や大規模修繕等（社会資本整備等投資活動）、特別区債の返済等（財務活動）に使われていることがわかるのよ。

キャッシュ・フロー計算書には、非現金収支の情報が含まれません。従って、最終的な収支差額（形式収支）は、一般会計決算に一致します。

（単位：百万円）

科目	令和２年度	令和元年度	増減
Ⅱ 社会資本整備等投資活動			
国庫支出金等	2, 182	1, 929	254
国庫支出金･都支出金	2, 142	1, 926	216
分担金及び負担金等	40	3	37
財産収入	34	0	34
基金繰入金	6	506	△ 500
財政調整基金	0	0	0
特別区債等管理基金	0	500	△ 500
特定目的基金	6	6	0
貸付金元金回収収入	1, 028	1, 556	△ 528
収入計	3, 251	3, 990	△ 740
社会資本整備支出	7, 359	8, 102	△ 743
基金積立金	2, 662	3, 034	△ 371
財政調整基金	2, 580	365	2, 215
特別区債等管理基金	5	354	△ 349
特定目的基金	78	2, 315	△ 2, 237
貸付金・出資金等	1, 032	1, 165	△ 133
支出計	11, 054	12, 301	△ 1, 247
社会資本整備等投資活動収支差額	△ 7, 803	△ 8, 311	508
Ⅲ 財務活動			
財務活動収入	2, 524	1, 591	933
特別区債	2, 524	1, 591	933
収入計	2, 524	1, 591	933
財務活動支出	1, 676	2, 350	△ 674
公債費（特別区債元金）	1, 600	2, 087	△ 486
リース債務返済	76	263	△ 188
支出計	1, 676	2, 350	△ 674
財務活動収支差額	848	△ 759	1, 607
収支差額合計	△ 531	37	△ 568
前年度からの繰越金	2, 869	2, 832	37
形式収支	2, 338	2, 869	△ 531

Ⅱ 社会資本整備等投資活動

固定資産や基金の増減に係る現金収支です。

＜収入＞

国庫支出金等　国・都からの支出金のうち、資産形成にあたるもの

財産収入　区有地など区の財産の売払い収入

基金繰入金　財政調整基金、特別区債等管理基金、特定目的基金からの繰入収入

貸付金元金回収収入　貸付金の元金償還による収入

＜支出＞

社会資本整備支出　公共施設など区の固定資産の形成にあたる支出

基金積立金　基金に積み立てるための支出

貸付金･出資金等　区民や事業者等への貸付事業支出及び出資金等

Ⅲ 財務活動

外部からの資金調達に係る現金収支（主に特別区債の借入金収入及び償還金支出）です。

＜収入＞

特別区債　特別区債発行による収入

＜支出＞

公債費（特別区債元金）　特別区債の償還金のうち元金分の支出

リース債務返済　リース資産の賃借料の支出

4　正味財産変動計算書

正味財産変動計算書は、貸借対照表の正味財産の増減を、要因ごとに表示したものです。正味財産がどのような要因で増減しているのかを明らかにしています。

＜一般会計正味財産変動計算書＞

（単位：百万円）

	開始残高相当	国庫支出金	都支出金	負担金及繰入金等	受贈財産評価額	会計間取引勘定	その他剰余金	合計
令和元年度末残高	347, 488	3, 585	3, 035	3	353	△ 135	24, 326	378, 656
令和２年度変動額	0	1, 022	1, 123	40	17	△ 36	2, 352	4, 518
固定資産等の増減	0	1, 022	1, 121	40	17	0	0	2, 200
特別区債等の増減	0	0	0	0	0	△ 36	0	△ 36
その他内部取引による増減	0	0	2	0	0	0	△ 2	0
当期収支差額	0	0	0	0	0	0	2, 354	2, 354
令和２年度末残高	347, 488	4, 607	4, 158	43	371	△ 171	26, 678	383, 174

正味財産変動計算書

開始残高相当
　開始時（平成 28 年４月）の資産と負債の差額

国庫支出金／都支出金
　国・都からの支出金のうち、資産形成にあたるもの

負担金及繰入金等
　負担金等その他の歳入のうち、資産形成にあたるもの

受贈財産評価額
　無償で受け入れた資産の評価額

会計間取引勘定
　会計間で正味財産を異動した場合に計上されるもの

その他剰余金
　行政コスト計算書の当期収支差額

当期末残高・合計
　貸借対照表の正味財産の額

正味財産の合計列を見ると、令和元年度末残高が3,７８７億円だったのが、令和２年度中に４５億円増加して、令和２年度末当期末残高が3,８３２億円になったのね。

令和２年度に増えた４５億円の内訳をみると、公共施設整備など固定資産等の形成のための国庫・都支出金２１億円、行政コスト計算書の当期収支差額のその他剰余金２４億円が主な理由だってことがわかるんだね。

5　有形固定資産及び無形固定資産附属明細書

有形固定資産及び無形固定資産附属明細書は、荒川区が保有する固定資産（投資その他の資産を除く）の状況を示したものです。

＜一般会計有形固定資産及び無形固定資産附属明細書＞

（単位：百万円）

	令和元年度末残高（取得額）	令和２年度増減額（取得額）	令和２年度末残高（取得額）	令和２年度末減価償却累計額	令和２年度減価償却額	令和２年度末残高（現在価格）
有形固定資産	430, 794	7, 192	437, 985	79, 143	3, 409	358, 842
行政財産	216, 782	7, 587	224, 369	71, 764	3, 049	152, 605
土地	90, 610	1, 610	92, 219	0	0	92, 219
建物	116, 001	4, 335	120, 336	63, 252	2, 853	57, 084
工作物	10, 171	1, 643	11, 814	8, 513	196	3, 301
その他有形固定資産	0	0	0	0	0	0
普通財産	14, 005	474	14, 479	2, 514	33	11, 965
土地	11, 185	452	11, 637	0	0	11, 637
建物	2, 741	23	2, 764	2, 438	33	326
工作物	79	△ 1	78	76	0	2
その他有形固定資産	0	0	0	0	0	0
重要物品	2, 745	56	2, 801	1, 420	102	1, 381
インフラ資産	192, 974	316	193, 291	3, 395	186	189, 896
土地	175, 284	53	175, 336	0	0	175, 336
土地以外	17, 691	264	17, 954	3, 395	186	14, 560
リース資産	1, 183	△ 596	586	50	39	536
建設仮勘定	3, 104	△ 645	2, 460	0	0	2, 460
無形固定資産	6	1	7	5	0	2
行政財産	0	0	0	0	0	0
普通財産	6	1	7	5	0	2
インフラ資産	0	0	0	0	0	0
計	430, 799	7, 193	437, 992	79, 148	3, 409	358, 844

有形固定資産及び無形固定資産の令和元年度末残高は４,３０８億円だったんだけど、令和２年度中に荒川区立日暮里地域活性化施設（ふらっとにっぽり）や新たな尾久図書館の建設等を行ったから、土地や建物等が７２億円増えて、令和２年度末残高は４,３８０億円になったんだよ。

そこから令和２年度末減価償却累計額７９１億円を差し引くと令和２年度末の現在価格が３,５８８億円になるんだよ。

公共施設（行政財産と普通財産）の建物と工作物の現在価格は、取得額１,３５０億円から減価償却累計額７４３億円を引いた６０７億円なのね。

区の公共施設は、使用や時間の経過等に伴って、老朽化や損耗などが進んで、半分くらい資産価値が下がっているのね。

《参考》　荒川区の新公会計制度への取組みの経緯

年月等	内　　容
平成 １２年度	決算統計の組替による初の区の貸借対照表（平成１１年度決算版）を作成
１９年３月	「地方自治体に経営の視点を定着させること」、「地方自治体の情報開示をより一層向上させること」を目的に、「自治体公会計改革宣言」を行う
２０年９月	総務省方式改訂モデル（決算統計組替）による財務諸表作成（平成１９年度決算版）
２１年３月	総務省方式改訂モデルによる財務諸表を活用し、「荒川区包括年次財務報告書」を公表（平成１９年度決算版）　※以降、平成２７年度決算版まで総務省方式改訂モデルにより毎年度公表
２６年４月	従来の決算統計組替に代わる本格的な日々仕訳による複式簿記・発生主義会計の導入を検討するため、庁内に検討委員会を設置
２６年度 ～２７年度	東京都方式の導入を決定し、平成２８年度新公会計制度導入に向けて、会計基準や固定資産台帳の整備のほか、財務会計システムの改修等を行う
２８年４月	新公会計制度の運用開始
２９年９月	新公会計制度による初めての財務諸表を作成し、「荒川区包括年次財務報告書」で公表（平成２８年度決算版）
３０年１０月	「あら坊・あらみぃと一緒にみる荒川区の財務諸表」作成
３１年３月	統一的な基準による財務書類をホームページで参考として公表
令和２年１２月	「荒川区の財務諸表Ｑ＆Ａ」作成

いかがでしたか。

荒川区の財務諸表をもっと知りたい方は**令和２年度荒川区包括年次財務報告書**をご覧になってくださいね。財務諸表の詳細な分析のほか、区が目指す都市像別の財務分析も掲載しているのよ。

区役所地下１階情報提供コーナー、各区民事務所・図書館等で配付中です。

荒川区のホームページにも掲載しているよ。ぜひみてね！

令和３年１０月発行　　登録番号（０３）００５０

あら坊・あらみぃと一緒にみる　荒川区の財務諸表

編集・発行　荒川区会計管理部会計管理課
〒116-8501　東京都荒川区荒川２－２－３
TEL　03-3802-3111（代表）　内線 3225